

50周年記念館「八角堂」造営趣意書

佐世保工業高等専門学校

創立50周年記念事業実行委員会

造営の目的：

佐世保工業高等専門学校は、昭和37年(1962年)に九州唯一の国立高等専門学校第1期校として創設されて以来、50年におよぶ科学技術の人材育成と研究を通じ、地域社会をはじめ我が国産業界の発展に大きく寄与してまいりました。

佐世保高専創立50周年記念館「八角堂」は、本校50年の歴史を回顧・総括すると共に、次の50年、すなわち百周年に向けて一層の発展を象徴するモニュメントとして企画されています。多くの卒業生や産業界、そして本校教職員を含めた関係者のご好意による基金によって建設を進め、平成24年(2012年)度中の完成を目指しています。

この記念館は、学校の沿革や発明・発見を含む輝かしい佐世保高専に関連する科学技術の研究や教育、そして部活動の歴史を記録する資料を、将来の発展に役立てるために収集・保存・展示し、多くの方々に活用していただくことを主な目的としています。また、本校卒業生・在校生はもちろん、産業界や地域住民の方々にも有意義な交流の場を提供するために、教育や技術に関する各種の催しや会合など多目的に使用できるホールも備えています。

設計の理念：

八角形は漢字を使用する文化圏においては、8は末広がりである幸運の数とされています。漢字で「八」と書くと下の方が広がる事から「末広がり」を意味し、日本では幸運とされています。特に古代日本においては、8は聖数とされ、また、漠然と数が多いことを示すのにも使われました。(例：八島、八雲、八咫鏡、八重桜)。同様に、八を用いた八十(やそ)、百八十(ももやそ)、八百万(やおよろず)等も「数が多い」という意味で用いられています。また、8は横にすると∞(無限大)になります。

また、建物を上部から見ると螺旋状になっていることがわかります。螺旋は、運動性や生命力を感じさせる面があるので、芸術作品などにおいては、様々な意味を込めた象徴、シンボルとして用いられることも多く、基本的には繰り返しの構造でありながら、同じ位置をたどらず、無限に上昇する構造を歴史や生命になぞらえています。

また、本校の多目的室前にあるピロティ壁画の螺旋と無限大のデザインも、これと同じ構想で描かれており、そのテーマとして未来への無限の可能性「the Unlimited Possibility into the Future」を掲げています。

私どもはこのような理念を掲げて記念館を造営し、50周年を機に未来へ向けて一層飛躍する佐世保高専の建設に邁進するものであります。